



学校だより

6月号

横浜市立桜台小学校

令和4年5月31日発行

困難こそ発展の好機

副校長 早坂 考史

先日、学校のプール清掃を行いました。6月中旬から始まる水泳学習の準備を着々と進めているところです。この2年間は、コロナ禍の影響により全く水泳学習をすることができませんでした。全校児童の約半分にあたる3年生以下の児童は、一度も学校のプールに入ることがないのです。水着への着替え方から持ち物の確認、プールへの移動方法、シャワーの浴び方、プールサイドでの約束事から水中での安全確認、そして肝心の浮き方・泳ぎ方に至るまで、本来1年生から学習すべき内容を一から学ぶこととなります。こんなところにもコロナ禍の影響は出ています。



6月11日（土）には土曜参観を予定しています。今年度は、参観者の密を避けるため、各学年1組は1時間目、2組は2時間目、3組以降（個別支援学級を含む）は3時間目とクラスによって参観時間を区分する新しい形の参観とさせていただきます。各クラス1時間だけの公開とはなりますが、少しでも保護者の方に学校の様子を知っていただきたいとの思いから、感染症対策を講じた上での実施計画となっています。また、試行の一つとして授業の中程で保護者の入替をするための合図と呼びかけを考えています。これは、保護者の方からの「教室に入ることのできる人数には限りがあるので、途中で入れ替わることができないものなのか」というご要望にお応えするものです。詳細は、後日メール等でもお知らせします。

報道にもあるように現在もコロナ禍は続いています。これからも、その中で何ができるのかを考えていく必要があるのだと思います。

昭和の実業家である松下幸之助氏は、自社の社員に対して「過去においては、困難に直面したときに、必ず何ものかを生み出してきている。この考えに立てば、かつてない難局であれば、それは同時にかつてない発展の基礎になると感じることができる。」と演説したことがあったそうです。この考え方は、学校の教育活動にも応用できると思います。教育活動に対してコロナ禍のような困難が立ちはだかった時に諦めるのではなく、「どんな工夫をすれば実施できるのか」、あるいは「どんな代替案で子どもたちの笑顔を増やしていくのか」といった発想ができる学校でありたいと思っています。この様々な制約がかかる時代を発展の好機ととらえ、新しい形の教育活動実現に向けて、今後ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。